【ポスター発表】

滞日外国人児童へのキャリア支援の試み

－WOOP を活用した滞日ブラジル人児童への実践を通して－

○　関西福祉科学大学　　柿木　志津江（4238）

木村　志保（関西福祉科学大学・5949）、寶田　玲子（関西福祉科学大学・8589）

キーワード：滞日外国人児童　キャリア支援　WOOP

１．研 究 目 的

滞日外国人児童を対象とした研究を概観すると教育をテーマとしたものが多く見られ、その中にはキャリア教育に言及したものもあったが、キャリア教育そのものをテーマとしている研究は見当たらない。しかし、滞日外国人児童が学校を卒業後、生活の場をどこにするのかに関わらず、社会の一員として生活していくことには変わりないことを踏まえると、キャリア教育への関心がより高まる必要があると考えられる。

そこで、本報告においては、WOOP というツールを活用した滞日外国人児童を対象としたキャリア支援の実践について報告するとともに、今後の課題を検討した。

２．研究の視点および方法

キャリア支援プログラムは 2016 年 11 月に実施した。対象は滞日ブラジル人支援団体のポルトガル語教室受講児童で、小学生 19 名、中学生 5 名であった。なお、当日は児童の保護者が 13 名同席していた。本プログラムの実施概要は表 1 の通りである。

表 1　滞日ブラジル人児童へのキャリア支援のプログラム

1　イントロダクション 趣旨説明／担当者の紹介 2　資料をもとに、以下の内容について説明 福祉／福祉の仕事／ソーシャルワーカー／社会福祉士・精神保健福祉士／社会福祉士・精神保健福祉士の活動領域／社会福祉士・精神保健福祉士の具体的な活動場面／WOOP 3　WOOP シートの記入

本プログラムにおいては、著者らの専門領域が福祉であることから、仕事の例として福祉の仕事、特にソーシャルワーカーについて取り上げた。説明の後、参加児童に WOOP シートを配布し、各自将来の夢について考える時間を設けた。

WOOP とは、メンタルコントラスティングと実行意図という心理学的知見に基づく、願いを達成するために自分の行動を調整するためのツールである（Oettingen, 2015）。W は Wish（願い）、O は Outcome（結果）、O は Obstacle（障害）、P は Plan（計画）を意味する。まず Wish（願い）を記入してもらい、願いを達成することから想像できる最善の

こと＝Outcome（結果）を思い浮かべ、願いを叶える上での Obstacle（障害）を見つけ、その障害を克服・回避するための Plan（計画）を「もし～なら」の形で考えるというものである。WOOP は幅広い年齢層で活用可能とされており（Oettingen, 2015）、中学生を対象とした教育実践とその効果検証に関する知見も報告されていることから（竹橋ら、2016）、本プログラムにおいても活用することとした。

３．倫理的配慮

本研究は関西福祉科学大学研究倫理委員会の承認を得て実施しており、日本社会福祉学会研究倫理指針に則っている。なお、本報告の内容は投稿中のものと一部重複するが、本報告ではキャリア支援の実践に焦点をあてており、内容の差別化を図っている。

４．研 究 結 果

福祉の仕事の説明は、参加児童の年齢からすると理解しイメージしづらい部分もあったと思われる。提出のあった WOOP シート（感想記載欄含む）は 20 名分（24 名中）であった。「福祉について勉強になった（初めて聞いたけどわかった）」「よく聞けた」「楽しかった」等が 10 件、「むずかしかった」「わからなかった」等が 5 件、「少しわかった」等が 3 件であった。中には「なぜ福祉の仕事の話がいきなり始まったのか」という感想もあった。「将来の夢」に関しては、各自の夢が自由な発想で記入され、友だちと相談したり、著者らに記入の仕方を尋ねたりと、楽しみながら取り組む様子がみられた。一方で、中学生は概ね記入が進まず、用紙の提出がなかった児童もあった。また、WOOP シートの項目の「障害」の部分を具体的に記入できた児童が少なかった。

５．考 察

以上の実践を踏まえ、今後、このようなプログラムを実施する上では、プログラムの冒頭で目的について丁寧に説明をすること、仕事の説明においては参加者が理解イメージしやすいような工夫をすること、年齢や学年による差異を考慮した内容にすること、参加者が考えたり記入したりする時間を十分に確保すること、少人数に対応できる体制で臨むことが課題としてあげられた。

本プログラムの内容は、「キャリア教育プログラムの枠組み（例）」（国立教育政策研究所、2002）に提示されている項目に通じるものがあり、キャリア支援の取り組みとして有効であることが示唆される。本プログラムを発展させつつ、滞日外国人児童のキャリア支援について、さらに検討していきたい。

※本報告は平成 27～29 年度日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））（課題番号 15K03997）「ニューカマーの障がい者のための生活支援システムの構築－滞日ブラジル人の調査から－」（研究代表者：寳田玲子、研究分担者：木村志保、柿木志津江）の研究成果の一部である。